

 株式会社 高木包装

社員みんなが、毎日ワクワクできるような仕事をつくり、みんなで一緒に楽しく働ける会社にするからこそ、経営者の最大の使命だと思っています。創業者から引き継ぐ「心のかようパッケージづくり」の精神を忘れずに、包むことの可能性を創造し続けます。

株式会社高木包装 代表取締役社長

たか き み か
高 木 美 香 氏

2023年5月26日、同社本社にてインタビュー

▶ 創業以来、パッケージの新しい可能性・価値を創造し続ける

— 御社の歩みや概要について教えてください。

私の祖父が縄の製造・販売業を営んでいたのが当社の発祥です。1955（昭和30）年、父・高木正年が製縄業及び包装資材製造販売業として事業を開始しました。当時は梱包資材として木箱を扱っていたのですが、1964（昭和39）年の森林保護政策により資材が木箱から段ボールへと転換される中、父はいち早くその素材に着目し、段ボールケースの製造を開始したと聞いております。

創業以来、包装や段ボールの可能性を追求し、企画立案から印刷、製函、出荷、配送まで社内一貫体制を確立しました。また、積極的な設備投資により機器を導入したことで、小さな箱から業界最大クラスの3mを超える大型段ボールケースまであらゆるニーズに対応することが可能です。お

陰様で顧客からは関西有数の段ボールケースメーカーとして高い評価を得ており、近畿二府四県はもとより、三重県の企業にも幅広くお取引していただいております。

— 御社の社是や企業理念を考えられたとのことですが、込められた想いをお聞かせください。

「企業のために社員がいるのではなく社員のために企業がある」を社是としています。社員みんなが、毎日ワクワクできるような仕事をつくり、みんなで一緒に楽しく働ける会社にするからこそ、経営者の最大の使命だと思っています。とにかく社員のことを大事にしていこう、社員がいきいきと働けるような会社にしようとの想いを込めました。

父が社長を務めていた高度成長期の頃は本当に忙しくて、多くの社員が疲れているようでした。私も当社の社員でしたのでその様子を目の当たりにして、もう少し家庭を大事にした働

き方がしたい」と感じていました。そこで、私が社長に就任した時に経営理念を「“包む”を軸として新しい価値を愛と夢をもって創造する会社」としたのです。当社は創業時から包むことにこだわって60年以上営業してまいりましたが、時代に応じてパッケージの新しい可能性・価値を創造し続けること、お客様はもちろん社員に対しても愛と夢をもって接する会社になりたいと思っております。

私は、企業経営において「主役は社員であり、社員が幸せでなくてはならない」と思っています。すべては伝わりきれていないかもしれませんが、社員を支えてくれているご家族に、現在の会社の理念は以前の経営方針から変わっているということを折に触れて伝えています。



——社長に就任されて、劇的な働き方改革をされたと伺いました。

私が社員の頃から感じていた「家庭を大事にしてほしい」「自分の時間を持ってほしい」との思いを実現するため、徹底した働き方改革を実施しました。まずは、「社員みんなが幸せに楽しく仕事ができるようにする」という目標を掲げ、社会保険労務士事務所やコンサルタントを活用して給料体系の見直しから着手し、工場長が中心となって工場全体の働きやすい環境整備と残業に関する意識改革を行いました。それまでは、どちらかというと長時間、遅くまで仕事をしているのが美徳

みたいな感じがありましたが、みんなが「仕事は減らさずいかに早く帰るか」を考え、シフトを工夫して2交代制にするなど効率化を実現してくれました。今ではスピードアップのモデルができ、研修会の実施や業務日誌を通して問題点に取り組むなど自主的に生産性を向上させるよう考えてくれています。「ありがとうあふれるチームづくり」が今年のスローガンです。

——御社が今日の姿に成長してこられた原動力や強み等についてお聞かせください。

父は、バブル期であっても本業以外にはわき目も振らずに、段ボールケース製造用機械を常に新しくしてきました。急速に発展する段ボール素材の品質・性能の向上や機械の技術開発にはめざましい進歩があり、当社もそれに追いつけと技術を磨いてまいりました。この長年の技術力の蓄積が財産だと考えます。

また、当社では配送はすべて自社便ドライバーが行い、責任をもって商品をお客様にお届けしています。営業社員が直接お伺いして受注し、生産の全工程を自社内で完結して納品は自社のトラック便を使用します。配送車は3トン車から10トン車まで多数のトラックを保有し必要な数量をタイムリーにお届けできる機動力・チーム力が会社全体の強みです。

▶パッケージの力で商品や地域活性化のためのブランド力向上に貢献する

——御社の手掛けたパッケージデザインが数々の賞を受賞されました。

段ボールケースは、商品を運ぶためのものから、時代とともに変化する商品（内容物）をいかにユーザーのニーズに応じて運ぶかが重要です。当社は「心の通うパッケージづくり」をモットーに、パッケージを通してブランド価値を上げることに挑んでいます。その成果として、2016年から2021年まで6年連続で、日本包装技術協会から包装アイデア賞や贈答品部門賞、パッケージデ

デザイン賞などをいただきました。中でも、奈良県内のいちご生産者「奈良いちごラボ」のパッケージは、パッケージの力で商品のブランド力を向上させ、地域活性化につながることができた一例です。「奈良のイチゴを全国に、そして世界に発信する」という思いを形にしたもので、ロゴ、プロモーションツールそしてパッケージなどデザイン全般を企画から一緒に時間をかけて生み出しました。そうして完成したロゴが美しく印刷されたパッケージは、赤、ピンク、白の3色のイチゴにさらなる付加価値を見出し、高級贈答品として東京や海外で大変な人気を博しています。奈良県の生産品が注目されるお手伝いに当社が携われたことをとても嬉しく思います。

私は、内容物とパッケージのイメージをうまく連動させることがその商品のブランド力を向上させる鍵だと思っています。今後もワクワクを届けるパッケージづくりを通して、パッケージの力で顧客の商品や地域活性化のためのブランド力向上に貢献できるよう努めてまいります。

—— 地域ブランド「^{はじかみ} 薑 ブランド」についてお聞かせください。

父は地域を愛する気持ちが強く、葛城市商工会の会長や「道の駅かつらぎ」の初代社長を務めま



した。その姿勢を受け継ぎ、奈良県の企業・産業の振興をサポートするべく、本社のある葛城市薑にちなんだ新ブランド「^{はじかみ} 薑」を立ち上げました。父の思いを“つなぐ”ものとして、地域の文化や特産品などを掘り起こして発信していきたいと考えています。

—— 段ボールの新たな価値を創造するため開発されたオリジナル商品について教えてください。

顧客のニーズに合わせて様々な段ボールケースを提供するのはもちろん、段ボールの素材の強さや軽さ、加工が容易で環境に優しいなどの特徴を生かし、簡易ベッドやトイレ、間仕切り、卓上カ

受賞経歴

数々の受賞の栄誉をいただきました

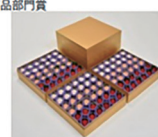
- 2015 DESIGN ARTS WARIBASHI がインターナショナルギフトショー 「心を豊かにするジャパンギフト」に選出
- 2015 2016ガイドードリンコ卓上カレンダーデザインコンペ優勝
- 2016 日本包装技術協会 日本パッケージングコンテスト 包装アイデア賞受賞
- 2016 奈良県経済産業協会 日刊工業新聞社社長賞受賞
- 2017 日本包装技術協会 日本パッケージングコンテスト 食品包装部門賞受賞
- 2017 2018ガイドードリンコ卓上カレンダーデザインコンペ優勝
- 2018 日本包装技術協会 日本パッケージングコンテスト 贈答品部門賞受賞
- 2018 2019ガイドードリンコ卓上カレンダーデザインコンペ優勝
- 2019 日本包装技術協会 日本パッケージングコンテスト パッケージデザイン賞受賞
- 2019 2020ガイドードリンコ卓上カレンダーデザインコンペ優勝
- 2020 2021ガイドードリンコ卓上カレンダーデザインコンペ優勝
- 2020 日本包装技術協会 日本パッケージングコンテスト 贈答部門賞受賞
- 2021 日本包装技術協会 日本パッケージングコンテスト 贈答部門賞受賞
- 2021 アジア包装連盟 アジアスター2021 受賞（日本パッケージングコンテスト入賞者がエントリーできるアジアでのコンテスト）
2021年贈答部門賞を受賞したサイカイ引越センターとのパッケージで挑戦し、受賞した。



2020年 贈答品部門賞



2021年贈答品部門賞



アジアスター2021



2016年 包装アイデア賞



2017年 食品包装部門賞



2018年 贈答品部門賞



2019年 パッケージデザイン部門賞

レンダーなど多岐に亘る段ボール製品を製造・販売しています。また、父の病気をきっかけに使い捨ての尿瓶を開発しました。これまで紙製というのはありそうでなかったのです。

段ボールをただのケースとして捉えるのではなく、段ボールの新たな可能性を見出すオリジナル商品の開発を通じて地域や社会を支えていきたいと考えています。



特許を取得した段ボールを使用した災害用簡易トイレ。2016年日刊新聞社長賞受賞。

当社は2018年12月に経済産業省より「地域未来牽引企業*」に選定されました。当社が選定されたことに感謝し、今後も地域貢献のためにさらに頑張っていこうと決意を新たにしました。

※経済産業省より選定された、地域経済への影響力が大きく、地域経済の中心となる担い手となりうる企業

私は周りから「発想が豊か」だと言われますが、結構色々な方向にアンテナを張っていて、当社で取り組める事例はないかなとも考えています。当社の開発精神は、段ボールをDANボール（D：デザイン力、A：愛、N：ナチュラル）と捉え、お客様の想いをカタチにすること。段ボールの機能性を活かし、私の好奇心と当社の創造力で今までとは違う段ボールの可能性を見出し、今後も社会や地域の問題解決に役立つ商品をお届けしてまいります。

——SDGsの目標を積極的に掲げるメーカーとコラボしてSDGs開発商品を手掛けられました。

SDGsのゴールである2030年に当社は創業75周年を迎えます。当社の経営の基本は「物流を支えるサプライチェーン」ですが、それに加え、世界的な取組みである「SDGs」を通してESG（環境・社会・ガバナンス）を重視した会社のあり方が必要だと思っています。そのような中、照明器具の大手メーカーより「段ボール製の照明カバーをつくれませんか」と相談を受け、明るさなどの照明環境や室内の空間づくりも考慮して完成させました。当社の会議室でも使用していますが、温かさや柔らかさが感じられ、そこから放たれる自然な光がリラックス効果や発想の転換につながっているように思われます。ものを包む段ボールが空間を包む素材となり、新たな付加価値を生むことができました。

また、製造工程で発生する段ボールの廃材を工作キットとして再生したサスティナブルトイ「SDKids」を商品化しました。通常、廃材は圧縮して古紙回収に回します。「SDKids」はこの廃材を様々な形の工作キットに再生し、パッケージ化しました。大人の感覚では「こんな切れ端なんて売れる訳がない」と思ってしまいがちですが、ワークショップを開催すると毎回子どもたちは目をキラキラさせて私たちの想定以上のものを創り上げて驚かせてくれます。決められた材料で決められたものを組み立てるのではなく、自分で工夫して



大手メーカーとコラボした照明カバー。組み立て用キットも販売されている（右下）

何かを作りあげることで創造性が向上します。「SDKids」は「捨てる前に役立てること」を通して、次世代につながるよりよい環境づくりと子供たちの創造性を養うことを実現する取組みです。現在、段ボールのリサイクル率は95%以上ありますが、さらに100%に近付けて持続可能な社会を創ることに貢献していきたいです。



「SDKids」キット（左）子供たちの作品（右）

—— 会社を育ててくれた地域への恩返しとしてイベントを開催されているようですね。

当社がこの地で60年を超えて商売を続けてこられたのも、地域の皆様と支えてくれた社員とその家族のおかげだと考えています。そこで、日頃の感謝を込めて感謝祭「高木包装 THANKS 祭」を2019年から毎年開催しており、今年は5月20日に開催しました。社外の方を招くのは3年ぶりで、取引先、近隣にお住いの皆さん、そして社員の家族にお越しいただきました。工場見学の他、相撲発祥の地である葛城市にちなんで力士や土俵の組み立てキットを使った「DANDAN 相撲大会」や、製造工程で発生する廃材を再生した工作キット、段ボールトラックづくり、抗菌段ボールトレを使った本格ビュッフェなど、数々の自社製品に触れていただきました。また、社員が手作りした焼きそばの屋台や社歌を歌っていただいているシンガーソングライター日高慎二さんのミニライブなども行いました。300人以上集まってくださった人たちが「美味しい」「ありがとう」と喜んでくださり、多くの笑顔が溢れて大変盛り上がりました。特に、社員の家族の子供たちに、お父さん、お母さんの家とは違う姿を見てもらうことができて良かったです。この感謝祭は、私にとって会社は周りの皆様があってこそ成り立つこ

とを再認識し、改めて一人一人への感謝を感じられる時間なのです。

—— 社歌を制作された経緯や、NIKKEI 社歌コンテストに応募されたエピソード等をお教えてください。

コロナ禍で人とのつながりが希薄になり、社員やその家族にもっとメッセージを伝えるのはどうしたらいいかと考えていました。前職の会社には社歌がありまして、曲や歌詞は案外覚えているのです。歌に会社の理念や想いを盛り込んで伝えようと思い、私が作詞作曲し社歌を創作しました。日本経済新聞が主催する「NIKKEI 社歌コンテスト」があると知ったのはその後です。予選は突破し、決勝戦に出場できたのですが1位にはなれませんでした。今年は、当社と産学連携による商品開発に取り組んでいる梅花女子大学の学生と一緒に再挑戦します。



「高木包装 THANKS 祭」の様子。工場見学（上）「SDKids」のワークショップ（中）「DANDAN 相撲大会」（下）

▶ 現社員の次の世代や地域の子供が入社 したいと思う会社を目指す

——社長としてリーダーシップのあり方について、どのようにお考えですか。

父は「自分の言うことを聞いていれば大丈夫」というタイプの経営者でしたので、当時は皆が社長についていくという感じでしたね。繰り返になりますが、私はいかに社員に楽しんで仕事をしてもらうか、自分たちで方向性を考え、実行するよう社員の機動力を向上させることがリーダーの仕事だと思っています。1日のうち大半の時間を仕事に費やしているわけで、その時間をやらされた感で過ごすのと、やりたいと思って仕事するのでは人生はかなり違ってくるのではないのでしょうか。社長として社員が主役となる組織をつくるとともに、「社長また何かおもしろいこと考えているな」というような雰囲気づくりを心掛けて会社を引っ張っていかれたらと思います。

私は社長になったときに、「今、目の前にいる社員の次の世代が入社したいと思う会社にしよう」と決意しました。お父さんやお母さんが楽しく生き生き働いていたら、子どもたちも「お父さん（お母さん）の会社に行きたいな」と感じてくれると思うのです。社員の子供たちがお父さん、お母さんにあこがれて、そして、地域の子供も当社にあこがれて入社してくれる会社にしたいと思っています。

今年の「高木包装 THANKS 祭」に来てくれた中学3年生の社員の息子さんと話をしました。彼とは8年前にも会っていて、その時に「この会社に入ってくれる？」って聞いたところ、「お父さん、遅くまで仕事してるから嫌だ」と答えたのです。そして、今年同じ質問をしたら、「うん」とは言ってくれませんでした。首を振ることもありませんでした。隣で彼の母親が「入社させてもらったら」って言うてくれたのがとても嬉しかったですね。そのように家族の人が思っていると、「あぁ、社長をやってきてよかった

なぁ」と感慨深いです。



—— これからの夢についてお聞かせください。

振り返ると、このコロナ禍は私たち中小企業にとって変化できるものすごく大きなチャンスだったと思います。当社は約10年前からインドネシアの研修生を受け入れています。研修生達は能力が高く素直で性格も良い。ただし3年、長くても5年で帰国してしまう。出国の際は涙を流しながらお別れするのですが、帰国後も彼らと一緒に仕事ができないかずっと考えていました。そのような中、コロナ禍でテレワークやオンライン会議が当たり前になり、海外との距離感が大いに縮まっています。仕組みを作ることができれば帰国した元研修生たちを現地で雇用できるのではないかと法律等いろいろ調べました。まだ様々な壁はありますが、当社の強みの一つである人のつながりを活かして、海外業務を展開していきたいと考えています。

また、女性経営者として働く女性を次世代につなげたいです。何ととっても、まだまだ男性社会で女性の経営者は正直大変です。私も色々な思いをしてきました。でも、私がリタイアするときに社内で女性社員の2世3世が働いてくれていたら嬉しいですね。困難なことも多々あると思いますが、女性経営者が増えたいです。諸先輩方がされてきたように、働く女性の可能性をもつ

と広げて次の世代につなげられたら自分の役割が果たせた気分です。



正面は組み立て式の4コマ漫画で、アメリカンコミック風のタカギマンとタカガール

——最後に若いビジネスパーソンに対するメッセージをお願いします。

自分のしたことが自分に還ってきますので、得たものを次につなげてください。そして、自分の「好きでワクワクする」を見つけてください。

私は長年営業を担当してきたおかげで、仕事を通して新しい人達と出会い、仲間が増えて、仕事が広がってきました。仕事の成果は報酬ではなく、仕事を通して自分自身が成長することだと思っています。

自分や組織の取組みが社会に役立ち、社会貢献できることで最終的に自分の人生が充実します。好きな仕事に巡り合えれば長く続けられるでしょうし、好きなことに打ち込めば良い縁に恵まれると思うのです。ですから、「好き」という本当に純粋な自分の気持ちを大事にして生きてほしいと思います。単純なことですけど、難しいです。様々な選択肢をどう自分自身で選んでいくか。最終的には、自分で選択して自分で創り上げていかないと何事も手に入らないですからね。やはりそこが一番大事なんじゃないかなと思います。

(聞き手・文責：八木陽子)

●プロフィール 高木 美香 氏

■主な経歴

1967 年 4 月 10 日 生まれ
1974 年 4 月 新庄町立（現・葛城市立）忍海小学校入学
1980 年 4 月 大谷中学校入学（大阪市）
1983 年 4 月 大谷高等学校入学（大阪市）
1990 年 3 月 大谷女子大学（現・大阪大谷大学）卒業
1990 年 4 月 ザ・パック株式会社入社
1993 年 結婚・退職
1993 年 4 月 株式会社高木包装入社
1994 年 長女誕生
1996 年 長男誕生
2014 年 10 月 専務取締役就任
2017 年 10 月 代表取締役社長就任
2022 年 初孫誕生

現在に至る

■座右の銘、好きな言葉

ありがとう

■大事にしていること

自分に縁のある人々を大切にしている

■趣味

旅行、ゴルフ、陶芸

■私のモットー

好きなことを大好きな人達と実行する

■好きな食べ物

点心

■お勧めの本

『すべては導かれている』田坂広志（著）

■私のストレス発散法

大好きな仲間と食事会 プチ温泉

■奈良県内で好きな場所（よく訪問される場所）

川上村

■所属企業の概要

- ・会社名：株式会社高木包装
- ・本 社：奈良県葛城市薑 74 番地 2
- ・創 業：1955（昭和 30）年 3 月
- ・資本金：1,200 万円
- ・社員数：103 名
- ・事業内容：段ボールケース製造業